

# おしゃべり工房拡大版

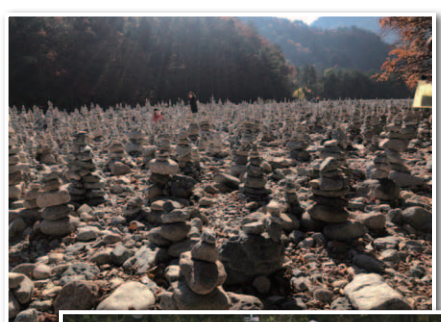
平成31年3月16日(土)に活動発表会の第二部としておしゃべり工房拡大版を行いました。ゲストスピーカーに田中純子さん(岡山市富山公民館主任)、林千尋さん(岡山市公民館振興室副主任)、小野田美津さん(北九州市島郷市民センター館長・元岡山市社会教育主事)の3名を招き、岡山市公民館ESD活動の事例発表を伺う事ができました。また、参加者の活動紹介の時間も設け、79名もの参加者相互の情報交流の場となり大盛況となりました。今後も他のRCEとの交流の推進を検討していきたいと思っています。目指すのは「みんなであつなろう!広げよう!」



人材育成・発掘プロジェクト 金子 良憲

## 調査研究・国際プロジェクト

10月25日から28日の3泊4日、今年も韓国インジェ郡へのESD研修ツアーを行いました。今回の特徴は、国連大学職員の方と日本のRCEのユースとして岡山から二人の大学生が参加し、RCE北九州のユースと合わせ、計9人のユース(全員で16人)が参加したことです。北緯38度の軍事境界線近くに立つ韓国軍の展望台、北朝鮮が造ったと言われる第4トンネルなどの訪問は、休戦状態にありながらも、いつ戦争が起こってもおかしくないという緊張感を皆に持たせました。昨年は雪で行くことができなかった百禪寺(ペクタンサ)では、寺の前の川にはたくさんの石々が積まれており、参拝者の祈願の多さを表すものでした。参加者は、インジェのスタッフや高校生などと交流ができ、また、韓国の料理を食べてもらったり、韓国の太鼓をたたき、アリランを歌って踊ったりと、新たな印象が残りました。女子学生はインジェの農業に魅せられたようで、機会があれば、インターンで再度訪問したいと言っていました。



調査研究・国際プロジェクト 三宅 博之

## ～ESDツキイチの集い～

会員同士の絆を深める事を目的として開催しているイベントです。市民へのESD推進活動としても一翼を担っています。企画はサスコーディネーターの北九州市立大学地域創生学群プロモート実習が行っています。

- 6月 最近、運動をしていますか?
- 7月 わくわくドキドキぼうけん隊(到津市民センターとの協働)
- 8月 水環境から学ぼう!地球温暖化ってなに?
- 9月 簡単に栄養を学ぶ料理教室
- 10月 学生限定!SDGs meet up!!



## ～イベントプロジェクト～

未来ホテルデー・きゅうでんプレイフォレスト2019in山田緑地・ちよいエコホリデー・第13回得する街のゼミナールに参加しました。



流木でフォトフレームを作りました



# 未来パレットだより

vol.26

2019年11月22日発行  
北九州ESD協議会

ESDとは、「持続可能な開発のための教育」を意味する英語 Education for Sustainable Development の頭文字をとったものです。

## SDGsを学校教育に普及するには?

地球温暖化の影響で、毎年、台風が深刻な被害をもたらしている日本列島! このままでは、地球がもたない!地球の未来のために、世界中の人々が協力して地球の問題を解決しようと、193の国連加盟国によって2015年9月に採択された「持続可能な開発目標」がSDGs (Sustainable Development Goals) です。この流れに先んずること10年、日本が国連に提案し2005年に採択されたのがESD「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)です。北九州市では、2006年に北九州ESD協議会が設立され普及啓発に取り組んできました。北九州市はOECD(経済協力開発機構)よりアジア地域で初めて選定されたSDGs推進に向けた世界のモデル都市であり、国内ではSDGs未来都市に選定されています。SDGsの普及には教育が不可欠です。SDGs未来都市として、ESDやSDGsを子どもたちにどう伝えていけばよいか田島教育長さんに伺いました。



Q 教育長はどんな子どもでしたか?



A 子どもの頃過ごしたのは、まだ自然が残っていた黒崎と若松です。バッタを追いかけて、青虫を捕まえたり、小動物を飼ったり、生き物が好きな子どもでした。若松に住んでいた頃は、洞海湾の公害がひどく、カニを捕まえた時のヘドロの匂いも覚えています。子ども時代は、五感を通した自然体験は必要不可欠。しかし、今はそれができにくい時代です。だからこそ、教育プログラムとして大人が心して整えてあげることも大切だと思います。

Q 北九州市職員となられて、心に残っている現場は?



A 担当になった仕事に一生懸命取り組んで来ました。幼児教育担当の時は旅行先で、保育園や幼稚園を見回ったり、さまざまな分野で仕事してきたことが、SDGsの17の目標を理解することにつながっていると思っています。

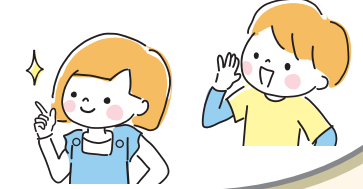


Q SDGs未来都市の北九州市として、これからの学校教育の中で、どのようにESDやSDGsを伝えていきたいと思っていますか?

A ESDやSDGsのために、特別な教育を行うことではなく、それぞれの学校ごとに現在取り組んでいる教育(環境教育、人権教育、多文化共生教育、キャリア教育、防災教育等)が、SDGsのどの目標に当てはまるのか?整理し深めていくことが重要であると思っています。また、地域について学ぶことは、郷土愛を深め、先人等の取組から防災へのヒントも探ることができます。SDGsのアイコンがあることで、子どもたちは何のために勉強するのか?全ての学びは、地球の未来のためだということを感じることができる、素晴らしいシンボルマークだと思います。

Q ESD協議会に望むことは?

A ESD、SDGsの視点を踏まえた教育を充実させるために、小学校用のプログラム等を開発していただきたいです。協働で推進してまいりたいと思います。



〒802-0006 北九州市小倉北区魚町3丁目3-20 中屋ビル地下1階  
電話・FAX (093) 531-5011  
E-mail : k-esd@k-esd.jp URL : http://www.k-esd.jp

発行：北九州ESD協議会 事務局  
編集：北九州ESD協議会ブランディングプロジェクト  
無断転載を禁じます  
Copyright © 2007 Kitakyushu ESD Council  
All Rights Reserved.

# ESDに取り組むユネスコスクールの紹介



ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章の理念を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校で、文部科学省ではESDの推進拠点として位置付けられています。北九州市内にあるユネスコスクールの取り組みをいくつか紹介します。



## 〔門司区〕 藤松小学校



藤松小学校では、全校で取り組む平和教育を行っています。また、6年生の修学旅行では長崎の城山小学校を訪れて、同校の子どもたちと意見交換を行い、平和公園で平和集会を行うなど、「平和」について自分のこととして捉える子どもたちを育てています。総合的な学習の時間では、「世界の人々とともに生きる」の学習として、北九州市に訪れたタイ国立シーナカリン・ウィロート大学附属プランサミット小学校との交流を通して、異文化理解の重要性や外国語教育の有用性を実感する活動も行いました。



## 〔小倉北区〕 藍島小学校



響灘にうかがう藍島小学校は、小規模校であるものの、島の自然のすばらしさや美しさに気づき、島やその周りの海にすむ生き物を守る心を育み、受け継がれてきた伝統文化「藍島盆踊り」を継承していくための取組を行っています。とくに、海の豊かさを学ぶことができるように、魚釣り体験や干物作りの体験を行っています。島の周りに生息する生物について調べる取組「スナメリウォッチング」では、マリンワールドや地域の方々からスナメリの生態や人々との関係、環境とのつながりなどを学んでいます。さらに、学んだ藍島の魅力を島外の方々に伝える活動も行っています。このような活動を通して、ふるさと藍島を愛し、島のために自分にできることは何かを考え、行動できる子どもを育てることを目指しています。



## 〔八幡東区〕 尾倉中学校



平成30年度北九州市3R活動推進団体に選ばれた尾倉中学校は、ペットボトルキャップ、歯ブラシ、牛乳パックの回収活動を実施しています。クリーン北九州まち美化キャンペーン、血倉小学校や地域の人たちと花植え活動や「J-DIG」の防災教育を学んだり、住み続けられるまちづくりを目標に活動しています。また、JICAの国際出前授業を受け国際理解を育み、キャリア教育「夢授業」を受け働き方について考える活動などを関連させて学ぶ中で、持続可能な社会づくりに貢献する態度や能力を身につけることを目標にしています。



## 〔八幡西区〕 黒崎中学校



北九州市の副都心「黒崎」を校区に持ち、花尾山麓の地下水が湧き出し、ホテルが舞う撥川などの自然環境がある黒崎中学校では、主体的に活動する市民育成を目指して「学級ESD」の取り組みを行っています。各学級で「持続可能な黒崎のまちづくり」をテーマに、自分たちができる取り組みを考え、家族や地域、地元企業や商店街で仕事をする人にインタビューをする活動などを通して、1年かけて、ひと・もの・文化・環境の結びつきが黒崎の活性化や、自分自身の生きる力につながることを生徒たちが発見していくことを目指しています。



## 〔小倉北区〕 菊陵中学校



帰国・外国人児童生徒教育センター校である菊陵中学校は、帰国・外国人生徒の日本語指導を行うだけでなく、全生徒が異国の文化を学び、日本文化について再認識できる取り組みを行っています。また、ユニクロと協力して行った「届けよう、服のカ」プロジェクトでは、実行委員会を組織し、地域への呼びかけを行い2695着もの子供服を回収し海外へ送る活動を通し、世界が抱える貧困や人権・環境について考え、力を合わせることで世界の平和や福祉に貢献できることを学びました。また、JICA研修員との交流を通して、コミュニケーションの大切さを学ぶなど、持続可能な国際共生社会の実現に貢献できる態度を養っています。



## 〔小倉南区〕 すがお小学校



紫川の上流にあるすがお小学校は、「つなげよう、わたしたちの紫川」を軸に子どもたちが、地域の人たちと協力して、「ふるさとの川」として守ろうとする意欲と行動力を高める活動に取り組んでいます。子どもたちは、川の清掃や調査をスタートとして、紫川の生き物調査に取り組み、紫川の歴史や川を守る人々の努力について学ぶことで、上流、中流、下流のつながりを考えるきっかけとなりました。また、むき出しになっている竹の根や竹が放置されている山の様子などに興味をもった子どもたちは、地域の人たちの協力を得て竹炭作りを体験し、川の浄化に役立てるなど自分にできることを考えて活動しています。



## 〔戸畑区〕 鞘ヶ谷小学校



鞘ヶ谷小学校では、未来の担い手を育成するために、グローバルな視点を持って学ぶ体験学習を行っています。近隣にある北九州総合体育館で行われる車いすバスケットボール国際大会にちなんで韓国や日本の車いすバスケットの選手と交流し、バリアフリーな世界の現実と自分の生活や生き方について学んだり、ラグビーワールドカップで北九州市がウェールズのキャンプ地となったことから、ウェールズのウィットチャーチ小学校と交流し、DVDを作ったり外国語で手紙を書いたり、修学旅行で城山小を訪れるなどの体験を通して、異文化理解を深めることによってグローバルな視点で平和について考える子どもたちを育てることを目指しています。



## 〔若松区〕 赤崎小学校



若松区にある赤崎小学校は、近くに大規模な太陽光発電所や風力発電所などに隣接しています。エネルギー問題の解決に向けて努力を続けている人たちとふれ合う活動を通して、総合的な学習の時間にSDGsの視点から「エネルギーと環境」をテーマに、暮らしを支える電気、それを生み出すエネルギーの関係性について考えあう学習を行なっています。まず自分たちの生活を見直し、未来のより良い地球環境づくりを目指して、自分たちができることに取り組もうとする実践的態度を養っています。

